

厚生科学研究費補助金

(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)

効果的かつ包括的リスクコミュニケーションの基盤構築に対する研究
分担研究報告書

感染症リスクコミュニケーション推進のための資料の作成

研究分担者 吉川肇子 慶應義塾大学商学部
研究分担者 山崎瑞紀 東京都市大学メディア情報学部
研究分担者 高木 彩 千葉工業大学社会システム科学部

研究要旨：本研究では、感染症リスクコミュニケーション推進のための資料の作成を行った。特に、短い時間でも理解ができるような専門家向けの資料や、啓発用の教材の作成に主眼を置いた。本年度の成果として、次の3つを得た。感染症の専門家が、リスクコミュニケーションを行うにあたって必要となるコミュニケーション心理学の基礎知識を啓発する資料を作製した。特に危機的な状況におけるクライシスコミュニケーションの手引きを、感染症のクライシスに適合するように作成した。食品由来の感染症のリスクコミュニケーションを学ぶための教材を作成した。

A . 研究目的

本研究では、感染症リスクコミュニケーション推進のための資料の作成を行った。特に、短い時間でも理解ができるような専門家向けの資料や、啓発用の教材の作成に主眼を置いた。

B . 研究方法

感染症リスクコミュニケーションの事例の検討、および文献の検討を通して、感染症の専門家向けのリスクコミュニケーションの資料作成を行った。その際、感染症の専門家からのニーズ、また現場での活用方法について、専門家からヒヤリングを行いながら、実施した。

(倫理面への配慮)

ヒトを対象とする調査及び実験の実施にあたっては、行動科学研究の世界標準であるアメリカ心理学会の倫理規定を遵守する。ただし、本年度は、こ

の倫理規定の適用の対象となる調査または実験は実施していない。

C . 研究結果

本年度の成果として、次の3つを得た。感染症の専門家が、リスクコミュニケーションを行うにあたって必要となるコミュニケーション心理学の基礎知識を啓発する資料を作製した。特に危機的な状況におけるクライシスコミュニケーションの手引きを、感染症のクライシスに適合するように作成した。食品由来の感染症のリスクコミュニケーションを学ぶための教材を作成した。

(1) コミュニケーション心理学の基礎知識

特にコミュニケーション手法に焦点を置いて、14ページの簡易なパンフレットを作成した(資料1参照)。それらの技法には実証研究の裏付けがあること

がよくわかるように、具体的な研究成果についても解説を行った。また、読みやすい日本語の文献も掲載することを心がけた。

(2) 感染症クライシスコミュニケーションの手引き

アウトブレイクなどの感染症危機の発生時に行うクライシスコミュニケーションについて、14ページの簡易なパンフレットにまとめた。危機発生時のクライシスコミュニケーションで重要な点が多いが、このパンフレットでは、専門家が失敗しやすいコミュニケーション上の留意点を中心にまとめた。

(3) 食品由来の感染症のリスクコミュニケーションを学ぶ教材

平成25年1月に発生した、ノロウイルスによる浜松市での大規模食中毒事件を受けて、同種の食中毒事件におけるリスクコミュニケーションを学べるカード教材を作成した。30分程度で実施できる簡易な教材であるが、危機時における情報共有についても体験的に学べるものとなっている。

D. 考察

いずれの資料および教材も、関係各所に配布し、短期的な評価ではあるが、肯定的な評価を得た。今後は、さらに配布先を広げ、成果を普及していくことが重要であると考えられる。

E. 結論

当初の計画通り研究が進行した。いずれの資料も、使用する人や場面が広がるにつれて、修正する必要があるが、それらについては順次対応していき、必要な修正を加えていく。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし